

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	先端社会研究所
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものである
要素	教育研究組織の編制原理
	理念・目的との適合性
	学術の進展や社会の要請との適合性
	(KG1) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究所の活動理念としてresearchとempowerment、実践目標としてNetworking, Education、活動事業としてarchive, publication, workshop, S-cubeをそれぞれ置く。	→運営委員会による研究所の活動計画・実施状況・成果発表に関する評価の実施。	B	B	B	B	/
2. 学部・部局横断的な研究・教育体制のもとで、「共生/移動」「景観/空間」「セキュリティ/排除」を三つの柱として関学らしい学際的な研究業績の発表を目指す。	→リサーチコミティをはじめ複数学部・研究科に所属する教員による研究体制・グループの構成状況の内訳。「ミッションステートメント」に適った研究の実施状況。	C	C	B	B	/
3. 海外との学術ネットワークの構築に基づき、「共生/移動」「景観/空間」「セキュリティ/排除」に関する国際的な研究組織・体制を確立する。	→海外との研究教育機関との協定/協力関係の状況(実施件数)。研究者の海外からの受入れと海外への送り出しの実施状況(実績数)。	C	C	B	B	/
4. 国内の関連する諸機関・組織との協同体制の確立に基づき、「共生/移動」「景観/空間」「セキュリティ/排除」に関する学際的かつ実践的な研究体制を確立する。	→大学外の諸機関・組織との学術交流・研究活動の状況(研究会・交流会の実施回数等)。ワークショップやSキューブの開催・実施状況(実施回数、共催相手数、等)。	B	B	B	B	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	運営委員会を年度中に9回開催、研究所の活動計画・実施状況・成果発表に関する報告を行った。また、3ヶ月毎に活動状況報告を研究推進社会連携機構へ提出することによって外部からの評価を得た。さらに、2012年度は本研究所の事業評価を受け大学評議会に於いて本研究所の改編がなされることが決定した。
目標2	共同研究として「アジアにおける公共社会論の構想－「排除」と「包摂」の二元論を超える社会調査－」として3つの研究班（南アジア/インド班・中国国境域/雲南班・日本班）による研究プロジェクトを開始した。各研究班からは毎月開催されるリサーチコミティにて報告と協議の場を設けている。
目標3	中国国境域/雲南班は2012年8月に雲南社会科学院において、同院の研究者とともに共同研究会を開催した。オランダ国立戦争資料研究所（N I O D）との学術交流を進め、「暴力（戦争）と切り離されて表象されてきた女性イメージの問い直し」について議論するための国際ワークショップを2013年3月に共同開催した。なお、2012年度にはN I O Dとの間で協定を締結した。
目標4	研究成果を一般市民に公開し、また社会の声を研究に反映させるための双方向的な研究交流の場として、中国国境域/雲南班による写真展「雲南の現在」を大学図書館エントランスホールで実施した。また2つのシンポジウム「二世」および「ジェンダーとICT」は一般公開というかたちで開催し、一般からの参加者も得た。なお、各班による研究会は9回の開催であった。
備考	